

公表:令和3年2月26日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	75%	25%	学習スペースや環境の確保に課題がある。男子や女子の更衣場所について課題がある。	次年度の改修にて課題を検討していきます。
	②	職員の配置数は適切であるか	83%	17%		必要な配置をしています。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	67%	33%	トイレの数が少なく、洗面所が小さく使いづらい。スペースの都合で可動式の棚や引き戸への改善をしたい。	次年度の改修にて課題を検討していきます。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	60%	40%		明示的なPDCAサイクルのようなものは示していないが、改善提案実行ができる環境があります。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	75%	25%		年1回のアンケートを今後も続けていきます。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100%	0%	把握できていない。	ホームページで公開しています。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	0%	100%	把握できていない。	適切なタイミングでの外部評価を検討しています。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%	0%	コロナの影響で研修が制限されているが、研修の機会が少ない。	業界としての研修の機会が少ないので、類似した研修機会を提供していく予定になっています。
滴	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%	0%		今後も継続的に実施していきます。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	33%	67%	具体的なアセスメントツールは使用していないが、他職種による連携相談検討をして見極めている。	利用児のほとんどが低年齢から療育部門を利用してきた子どもたちなのでアセスメントツールよりもこれまでの育ちを重視して支援していきます。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%	0%	月の活動案は主に作成担当者に任せている。	今後も継続的に実施していきます。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%	0%	毎月のプログラムがある。様々な活動や遊び、制作等のプログラムを入れ込んでいる。	今後も継続的に実施していきます。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	100%	0%	課題は平日と長期休暇とに応じて設定して支援を行なっているが、きめ細やかな設定には努力が必要。	今後も継続的に実施していきます。

適切な支援の提供	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%	0%		今後も継続的に実施していきます。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%	0%	送迎に出ている職員への伝達漏れがある。複数の学校に同時時間帯に送迎にくので打ち合わせは難しいが、役割分担や確認をできるように努力している。	打ち合わせのあり方について送迎担当の変更等も含めて検討しており、より情報共有を丁寧に行えるように考えています。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	100%	0%	必ずではないが情報共有している。全員での打ち合わせは時間がないが、情報を共有できるように努めている。	打ち合わせのあり方について送迎担当の変更等も含めて検討しており、より情報共有を丁寧に行えるように考えています。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%	0%		今後も継続的に実施していきます。
	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	100%	0%		今後も継続的に実施していきます。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	100%	0%	自立支援と日常生活の充実のための活動、制作活動、余暇の提供は行っている。地域交流の機会の提供は努力が必要。	今後も継続的に実施していきます。
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100%	0%		今後も継続的に実施していきます。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	100%	0%	学校行事や下校時間の把握など職員間で共有できている。	今後も継続的に実施していきます。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	100%	0%	対象利用児がない。	医ケア児の利用がありません。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	100%	0%		ほとんどの利用児が同一法人内の児童発達支援を利用していたため、情報共有はできています。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	100%	0%	対象利用児がない。	対象になる利用児がいません。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	100%	0%	同施設ない職員に助言を受けているが研修には努力が必要。	他機関との連携はコロナ収束後はより活発に行いたいと考えています。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	25%	75%	平日のみの個所なため、下校時間が遅い子もいるので交流が難しい。	法人内の学童クラブとの交流ができるように検討しています。

	⑳	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	0%	100%	よばれない。	参加を希望し続けていますが、参加する機会を与えられていません。
	㉑	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	0%	連絡帳を通じてや、送迎の際に声かけ支援している。	今後も継続的に実施していきます。
	㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	0%	100%		今年度は行っていないため、コロナ収束後は実施できるように検討していきます。
保護者への説明責任等	㉓	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%	0%		今後も継続的に実施していきます。
	㉔	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%	0%		今後も継続的に実施していきます。
	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	0%	0%	コロナの影響で今年度は開催検討していない。	今年度は行っていないため、コロナ収束後は実施できるように検討していきます。
	㉖	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	0%		今後も継続的に実施していきます。
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	お便りを月1回配布。予定等を知らせるように努めている。	今後も継続的に実施していきます。
	㉘	個人情報に十分注意しているか	100%	0%		今後も継続的に実施していきます。
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%	0%		メールなどの連絡ツールをより活用できるように検討しています。
	㉚	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	25%	75%	地域との交流機会は持っていない。	地域との交流機会がないのですが、見学希望があった場合には随時実施しています。
非常時等の対応	㉛	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	100%	0%	保護者への周知は今後の課題。	今後も継続的に実施していきます。
	㉜	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	0%		今後も継続的に実施していきます。
	㉝	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	コロナの影響から研修機会が持ちにくい状況にある。	順次職員が研修に参加できるよう仕組みを検討していきます。
	㉞	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	50%	50%	対象児がおらず記載していない。	身体拘束が必要なケースが全く生じていないのが現状ですが、期せずして身体拘束と捉えられる行為にならないように検討を重ねていきます。
	㉟	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100%	0%		今後も継続的に実施していきます。
	㊱	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%	0%	ヒヤリハットが発生したときに報告書を作成して職員間で共有し、改善策の検討や業務改善に活かしている。	今後も継続的に実施していきます。